

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 本郷工場

(2) 事業所の所在地

広島県三原市下北方1丁目3番1号

(3) 業種

清涼飲料製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成21年度を基準年度とし、平成23年度から平成25年度までの3年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)		目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
エネルギー 起源CO ₂				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
非エネルギー 起源CO ₂				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
メタン				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
一酸化二窒素				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
フロン類				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
温室効果ガス 実排出量総計				0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
温室効果ガス みなし排出量												
実績に対する 自己評価												

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： t/千cs (t: CO₂排出量、千cs: 製品ケース数)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)		目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
	平成21年度	平成21年度	平成25年度	平成25年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成	年度	平成	年度	
エネルギー 起源CO ₂	1.128		1.066		1.274	1.306	1.408			100.0	100.0	
非エネルギー 起源CO ₂			0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	
メタン			0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	
一酸化二窒素			0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	
フロン類			0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	
温室効果ガス 排出量総計	1.128		1.066		1.284	1.306	1.408			100.0	100.0	
エネルギー消費 原単位 (原油換 算k1)	0.5102		100.0		0.5523	0.5456	0.6007			100.0	100.0	
実績に対する 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、生産数量が減少している。 品種構成の多様化で多品種小ロット生産になっており、サンテーション、生産前準備など非生産時間におけるエネルギー使用量が増加している。 エネルギー使用量の多い殺菌製品と無菌充填設備での生産割合が増加している。 生産数量に入らないラインテストが増加したため、エネルギー使用量だけが増加した。 無菌充填設備に置ける不具合解消の為、サンテーションとテストを繰り返し行い、エネルギー使用量が増加した。 <p>以上の理由により、生産数が前年度比84.4%まで減少したが、エネルギー使用量が前年度比93.0%までしか減少しなかった為、原単位の改善をすることができなかった。</p>											

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	空気圧縮機の 台数制御による 電気使用量の削減	39k1/年	<ul style="list-style-type: none"> 空気圧縮機（100kw×3台と55kw×1台）を 負荷に応じて運転台数を管理 空気圧縮機（55kw×6台）を負荷に応じ て運転台数管理
2	ボイラー稼働台数・出力 の制御による燃料の 使用量削減	136k1	<ul style="list-style-type: none"> 負荷に応じてボイラーの運転台数を管理 蒸気アキュムレーターの圧力設定を見直し
3	ボイラー及び蒸気配管の 断熱処理による燃料 の使用量削減	36k1	<ul style="list-style-type: none"> 熱効率を上げることで、ボイラーの負荷を 少なくする。
4	省エネタイプ蒸気トラップの 導入による燃料使用 量の削減	95k1	<ul style="list-style-type: none"> 無駄な蒸気排出を抑えることで、ボイラーの 負荷を少なくする。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	CIPプログラムの見直し (時間短縮)		プログラムを見直すことで、蒸気使用量の削減 となる
2	メタルハライド電球のLVD化 の検討	現状の60%程度に使用電力 を削減	作業場・倉庫・屋外の照明設備を高効率の ものに換える
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。